

## ミャンマー視覚障害者自立支援事業

### ミャンマー医療マッサージトレーニングセンターにおける活動風景



解剖学授業：訓練生は視覚障害のため手の感覚が頼りになる。解剖学では骨格模型に触りながら骨の位置や形を確かめて勉強する。塩崎専門家（左端）、クンチャン専門家（真中後）。



模擬授業：トレーニングセンターで学んだ1期生は、2年目を母校で実習中。集中講義は2ヶ月に一度行われ、実習のアドバイス等を専門家から受ける。模擬授業では専門家や訓練生仲間に実習の成果を示す。訓練生（右端）と盲学校生徒達。



ディスカッション：ディスカッションでは、実習での課題や悩みを訓練生同士で話し合う。訓練生は皆、指導方法や生徒のことで苦勞するが、話し合い、お互いに助言をシェアすることで問題解決方法を模索する。



マッサージ実習：マッサージは体で覚えることも必要のため、練習は欠かせない。訓練生はペアになり、お互いにマッサージを受けながら練習する。専門家が自らマッサージを受け指導する場合もある。



マッサージ実習：

3人の先生によるマッサージ実技の指導。口頭でのマッサージの説明と手を取って指導を行う。訓練生は少しでも感覚をつかもうとし、四方八方から手を伸ばす。

武藤短期専門家（左）、喜多嶋短期専門家（真中）、吉田短期専門家（右）。





マッサージ実習：マッサージの練習は二人一組みになり、お互いにマッサージをし、感覚を確かめながら練習をする。



マッサージ実習：公開講座は盲学校の生徒だけでなく、地域の視覚障害者も参加する。講師の畑短期専門家が実際に参加者にマッサージをすることでマッサージの感覚を指導した。



マッサージ実習：参加者は熱心にマッサージの練習に励んだ。参加者を見守る畑短期専門家（右上）。